

# カルメル 霊性センターニュース



十勝カルメル会修道院

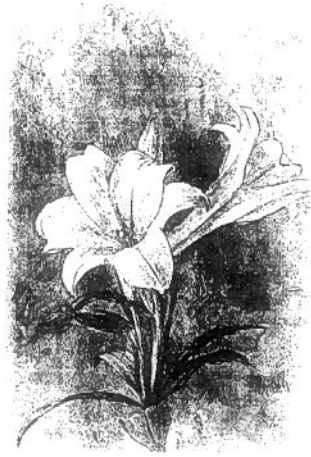
2016年3月

318号

## 目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	2 1
東京	2 2
京都	2 8
名古屋	3 1
北陸	3 2
諸所の企画案内	3 5
年間購読(郵送)のご案内	4 6
編集後記	4 7

# 心の泉





## 第二巻

### 第十二章 聖なる十字架の栄光ある道

#### 7 神は力を与えてくださる

十字架を担う、十字架を愛する、「肉体を抑えてそれに勝つ」(一コリント 9・27 参照)、栄誉を避ける、喜んで侮辱を忍ぶ、自分を無視して他人にも軽視されることを望む、逆境と損害とに耐える、この世における幸福を望まない。これらのことは人間の好みに合うことではない。みずから反省してみれば、以上のことが、一つとして自分だけではできないことが分かる。しかし主により頼めばあなたは天の力を受け、世間も肉体も支配し得るだろう。信仰で武装し、キリストの十字架の印を帯びるなら、あなたは敵である悪魔さえもおそれないであろう。

#### 8 キリストの兵士

だからあなたは、キリストの忠実なよいしもべとして、あなたを愛するあまり十字架にかけられた主の十字架を、雄々しく担っていきなさい。あわれなこの人生において、多くの逆境と不幸を耐え忍ぶ心の備えをしなさい。なぜならば、あなたはどこにいても不幸に見舞われ、どこに逃げても苦しみにあうからである。それは避けがたいことである。そして苦しみと患難とを避けるためには、それを快く耐え忍ぶ以外に方法はない。

もし主の友として、将来み国に入ろうと思うなら、愛をもって主の杯を飲みなさい。慰めについては、神がみ旨のままにはからわれるようにまかせなさい。あなたは患難を耐え忍ぶ備えをし、患難こそ最大の慰めだと考えなさい。あなた一人で、あらゆる患難を背負って忍んだとしても、「現世の苦しきは来世の栄光に及びもつかない」(ローマ 8・18) ののである。

## いつくしみの聖年を生きるために — 3月—

神はすべての人を不従順の状態に閉じ込められましたが、それは、すべての人をあわれむためだったのです」(ローマ11・32)。事実、すべての人が、一人の例外もなく、いつくしみの呼びかけを受け取るよう招かれています。

～『イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔』特別聖年大勅書18～



どうして  
十字架をになえば  
途中でくじけてしまう、  
などと恐れているのですか。  
イエスさまも、カルワリオへの道すがら、3度も倒れられたではありませんか。

それなのに、か弱い私たちが、イエスさまにあやかろうとしないのですか。必要なら100度でも倒れ、そして倒れる前よりもさらに勇気を込めて立ち上がり、主に対する愛を証明したいと思いませんか。

～小さいテレーズよりセリーヌへ～

神さまのいつくしみを通して眺めるとき、神さまは正義そのもの、つまり、わたしたちの弱さを斟酌なさり、人間本性のもろさを完全に知り尽くしておられる、と考えるのはなんと甘美な喜びでしょう！  
ですから何を恐れましょう？

～『テレーズ自叙伝』237～

四旬節も半ばを過ぎました。

ご復活までの道のりを日々新たに神のいつくしみのうちに  
過ごすことができますようにテレーズの励ましの言葉をお送りします。

伊従 信子 (いより のぶこ)  
ノートルダム・ド・ヴィ

## 人を赦す (28)

くのり  
九里 彰

人を裁くな。そうすれば、あなたがたも裁かれることがない。人を罪人だと決めるな。そうすれば、あなたがたも罪人だと決められることがない。赦しなさい。そうすれば、あなたがたも赦される。与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる。(ルカ 6・37~38)

だれかが自分に対して不当なことをした時、その人を裁き、その人を罪人と決めつけ、その人を赦さない、ということはごく自然である。日常茶飯、だれもがしていることである。したがってその人に何も与えないのが普通であろう。

これに対し、キリストは、人間の自然のまったく逆に行くように弟子たちに求めている。その人を裁かず、その人を罪人と決めつけず、その人を赦せというのである。それどころか、何も与えたくない彼に何でも与えなさいと言うのである。これは、どういうことなのであろうか。普通感覚で言えば、馬鹿げており、そんなことをする者は、常軌を逸していると思われるのではないか。

だが、ここにこそ、「あなたがたの父があわれみ深いように、あなたがたもあわれみ深い者となりなさい」という言葉の実行の成否がかかっている。なぜなら、「あわれみ深い者となる」のは、自分によくしてくれる人だけではなく、すべての人に対してであるからである。つまり、直前の「敵を愛せ」という教えにつながっているのである。味方を愛し、敵を憎むというのが人間の自然であるのに、「敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしなさい」(6・27) と、キリストは言うのである。

自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな恵みがあるだろうか。罪人でも、愛してくれる人を愛している。また、自分によくしてくれる人に善いことをしたところで、どんな恵みがあるだろうか。罪人でも同じことをしている。…しかし、あなたがたは敵を愛しなさい。そうすれば、たくさんの報いがあり、いと高き方の子となる。いと高き方は、恩を知らない者にも悪人にも情け深いからである。(6・32-33, 35)

## 十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (100)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### 私はそれほどの者ではありません… (1)

人生の事柄。文章の達人であったヨハネ修士は、れんがを作ったり、グラナダやセゴビアなどの修道院の菜園で働く達人でもありました。ある時、ある会の高位聖職者一だれであるかは分からないのですが、グラナダで彼に会うためにたずねて来ました。菜園で働いている彼に出会った時、彼（訳注：高位聖職者）はだしぬけにこう言いました。

「この町では、あなたにお目にかかったことがないから、いつも引きこもっているのか、この菜園にいらっしやるのでしょうか。どこかの百姓の息子であることは分かりますよ。」

この尊大で無礼な言葉に対して、十字架のヨハネこう答えました。

「私はそれほどの者ではありません。機織りの息子です。」

この単純で謙遜な答えは、相手に気に入りに、またこたえました。「神は、その高位ではあるが、虚栄心の強い、世間的な雰囲気漂浮を漂わせる聖職者を獲得しました。なぜなら、その時から神は、彼に天の道を、つまり謙遜を教えたからです。こうして彼は、くだんのヨハネ修父を頻りに訪れ、話をし、真の救いについて考え始めたのです。」

グラナダの同じ菜園で、フランシスコ会の修道院長は、一度ならず、レンガの泥の塊に両手をつっこんでいるヨハネ修父に出くわし、彼と雑談しました。そこには兄のフランシスコ・デ・イエペスも出かけました。彼は宝石商ではなく、ヨハネ修士のように泥にまみれた単純な左官工でした。一度ならず、聖人は自分の兄を、彼を訪れた人々に紹介し、彼らにこう言いました。

「あなたは、私の兄をご存知ですか。彼は私が何よりも大切にしているこの世の宝です。ここの菜園で働き、仕事をして、他の労働者と同じように日当を得ています。仕事以外に財産がないからです」。

このヨハネ修士とこのフランシスコ・デ・イエペスの二人は何という兄弟でしょう。ウベダ生まれのアンダルシアのある修道士は、ヨハネとフランシスコの両親を口をきわめてほめたたえています。「旧カステーリャ地方出身であること以上に別の理由」はなかったにもかかわらず、彼らが、自分の息子たちを、もっとも適切な完全な仕方、キリスト教徒にし、教化したことは、明らかだと推論しています。

諸徳の教化と浸透において、少なくとも、このイエペス兄弟の単純さと謙遜の徳は含まれるべきでしょう。それは、良い判断基準のしるしです。聖テレジアもこう言っています。

「おお謙遜よ、あなたがおられるところに、またあなたを持っている者に近づく人々に、あなたは何と大きな富をもたらすことでしょう」(『自叙伝』23,10)。

四旬節第4主日

放蕩息子のたとえ

(ルカ15:1~3、11~32)

今日の福音は有名な放蕩息子のたとえです。私の最も好きなたとえです。

イタリアにいたとき、イタリア人の仏教徒たちと話をしたことがありました。彼らは法華経を知っていたので、法華経の長者窮子のたとえと放蕩息子のたとえを用いて、私がキリスト教のどういうところに惹かれたかを説明しようとしていました。

長者窮子のたとえは長くて複雑ですが、一見して放蕩息子のたとえとよく似ています。一人息子が家を離れ、流浪の旅をします。50年の歳月が流れました。この間、父は子を探し回ったものを見つけることができず、ある都市に住み着いて大富豪となりました。しかし父の心はいつも行方不明になった息子を求めていたのです。そういうある日、偶然息子が父の家の門前に立ち、父を見ました。息子は王のような暮らしをしている人が、父とはわからず、自分のような卑しい者のいる場所でないと思い、走り去ります。一方父はすぐに息子だと気がつくのですが、心まですっかり踐民のようになって見抜き、父親だと名乗らず、息子を肥汲みとして雇います。自分も肥汲みの格好をして息子に近づき、親しく教え諭します。こうして徐々に重要な仕事をさせるようにし、ついには全財産の管理を任せるに至ります。この間、実に20年が過ぎ去っていました。父に死期が迫ってきました。父は大勢の親族、王や大臣を呼び集め、皆の前でこの男が実の息子であるとはじめて打ち明け、全財産を譲ると宣言します。

このたとえは、仏となるために人間が長期間修行しなければならないことを前提としていて、いかにも仏教的です。一方放蕩息子のたとえでは、父のもとに帰ろうと決心して帰ってきた下の息子を、父がいち早く見つけ、息子として受け入れ、大喜びして宴会を始めます。つまり神の赦しが無条件であるとよく現されています。長者窮子のたとえでは、息子が父のもとを離れた理由が書かれてなく、あるいは息子の意志でなく離れたかもしれないのに対し、放蕩息子のたとえでは息子ははっきりと自分の意志で父から離れ、父から与えられた財産を放蕩で使い尽くすという悪い事をしたのに無条件で赦されています。

私は仏教を信じる二人の若いイタリア人に、キリスト教のすばらしいところは、悔い改めさえすれば神が無条件で赦してくださるところにあると思うと言いました。ところが彼らは、私たちは努力したいのだ、何もしないで赦されるというのは良くないと答えます。まったく予想もしなかったことを言われたので返答に窮してしまいました。私の貧しいイタリア語のために実りある対話とはならなかったのですが、彼らのこの言葉だけは印象深く残りました。

今から考えると、彼らの取り方は仏教の性格に根ざすというより、若さゆえではないかと思います。若いときは成長したいし、がむしゃらに自分を伸ばすべき時でもあります。そういう時期に、無条件の赦しのありがたさはなかなかわからないのでしょう。自分の力で自分を救うことは出来ないというのを知り、自力の限界を知る体験があってはじめて神の愛のすばらしさが味わえるのでしょう。



## 四旬節第5主日 (C) (ヨハネ8:1-11)

今日の朗読は神がどんなに速やかにわたしたちの罪を赦し神との友情を回復して下さるかを思い起こさせます。三つの朗読の中心となっているテーマはいつくしみ深い神のゆるぎない愛です。

その出来事はエルサレムの神殿の境内で起こりました。イエスが座って民衆に教え始められているときのことで、イエスに反対している人たちが姦通の罪の現場で捕えられた女の人を連れて来ました。罪人に対する神の憐れみを常に宣言しておられるイエスを困らせようとする策略です。もしイエスが律法に従うべきであると主張すれば神の憐れみを説く預言者としては失格です。その上イエスが石打ちの刑に同意すれば個人が人を殺すことを禁じているローマの法律に違反することになります。もしイエスが姦通の罪ある女性に同情すれば、モーセの与えた神の掟と神の正義を無視していると非難されます。イエスの敵対者が仕組んだ幼稚な罠でした。

初めからイエスはこの問題に関心がないことを示すために地面に指で何かを書いておられました。しかし本当はイエスだけが唯一この女性を公正に裁くことのできる方でした。罪を自覚していた女性はイエスの裁決に従おうと待っています。彼女を訴えた独善的な告発人たちの意図と悔い改めているこの女性の最悪の状況を全て理解されたイエスは「あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まず、この女に石を投げなさい。」と言われました。イエスは訴えている者たち自身の心を顧みるよう促し、彼らもこの罪の女性と同じ罪人であることを認めさせようとなさいました。

彼女の犯した罪が“姦淫してはならない”と言う十戒の第六の掟であることを知っておられたイエスは、“行きなさい。これからは、もう罪を犯してはならない。”と強く女性を戒められました。イエスは彼女の犯した行為を軽視されたわけではありません。それは神の掟に反する行為、神の怒りを買うものです。イエスがこの女性の罪を赦されたのは、この罪を利用した策略を見抜いて、神の正義を示されたのです。彼女の罪を軽減されたのではなく、彼女に一人の人間としての尊厳を示し同情を寄せられたのです。はっきり、しっかりと悔い改めと回心の大切さを説かれたイエスは、彼女に未来への希望も与えてくださいました。イエスは神のいつくしみの生きたみ顔として描かれています。その裁きは賢明で優しく刑罰や死よりも赦しと社会復帰に心配りされたものです。

わたしたちはみんな和解を心がけた赦しの人になるべきです。罪人に対して溢れるほどのいつくしみと同情を示して下さったイエスは、わたしたちの罪のためにご自分の命を捧げてくださいました。わたしたちも自分の罪を日々糾明し、神に赦しを願ひましょう。この赦しを周りの兄弟姉妹にも与えられるよう、神に願ひましょう。いつくしみ、憐れみ、同情、受容の心を持ってイエスのように、わたしたち一人ひとりがそれぞれの日常生活において、いつくしみと憐れみである神の存在を伝えていく者となれますように！イエスに祈り願ひましょう。

(Sr. Paulina)

## 受難の主日（枝の主日）

（ルカ23：1－49）

今日のみことばは、イエスがゲッセマニの園で捕らえられた後、祭司長や律法学者によって総督ピラトの元に連れてゆかれて訴えられ、苦難を受けて十字架上的のご死去に至るまでの場面が語られています。ご受難の箇所ということで変わりはありませんが、年によって、マタイ、マルコ、ルカ、それぞれの福音書での描かれ方は異なっています。

私たちはイエスがどのような思いで、私たちの救いのためご自分を捧げて下さったのか、聖書を思い巡らしたいと思いますが、イエスの言葉は、昨年、一昨年（A年・B年）は、①ピラトに対する言葉、②父なる神への叫び、これら短い言葉の2カ所だけでしたが、今年は、ピラトに対する言葉のほかに、エルサレムの婦人たちへの長い励ましの言葉、十字架に磔にした人についての言葉、1人の犯罪人への言葉、父なる神にご自分の霊をお返しになる言葉が記されています。

ご自分が十字架を運んで苦しんでおられるにも関わらず、私のために泣くのではなく自分たち、子供たちのために泣きなさいと諭されるイエス、十字架に付けられながらも、十字架に磔にした人たちの赦しを願うイエス、今日あなたは私と一緒に楽園にいる…とイエスに心を向ける犯罪人に救いの言葉を掛けるイエス、父なる神への信頼のうちに、ご自分の霊をお返しになるイエス。この言葉を大切に、丁寧に眺めるとき、受け止めて心に留めるとき、私たちへのイエスの想いが、イエスを遣わされた父なる神の想いが、私たちの心にひしひしと伝わって来るのではないのでしょうか。

今日のみことばの最後に、見物に集まっていた群衆は、十字架に付けられたイエスの出来事を見て、胸を打ちながら帰って行ったとあります。またローマ帝国の兵士である百人隊長は、イエスは正しい人だったと神を賛美しました。

今日の福音を読んで、イエスの身に起こった出来事をしっかりと受け止めましょう。もちろん一人一人目が留まる、心に留まる箇所は異なると思いますが、出来事の場面を思い起こしながら、思い描きながら、私たちのため、ご自分の生涯を、ご自分の全てを捧げて下さったイエス様のことを深く心に刻んで、聖週間の歩み、聖なる3日間の歩み、主のご復活への歩みを、大切に進めてゆきましょう。

（Fr. 古川利雅）

## 復活の主日

みことばのひびき

(ヨハネ20：1～9)

本日の福音は、マグダラのマリア、ペトロ、そしてヨハネの空の墓での復活の体験についてです。マグダラのマリアは自分の体験を「わたしは主を見ました」と言っています。キリストの復活はキリスト者の信仰の土台です。イースターは私たち自身の復活の保証です。イエスはラザロの墓のところで「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる(ヨハネ11:25～26)」とマルタに言われました。イースターは、苦しみや悲しさ、涙のこの世で、希望と励ましを与えてくれる祭日です。人生は生きる価値があることを思い出させてくれます。私たちの個人的な、また共通の祈りに意味を与えてくれるのは、私たちの魂において、キリストの教会において、聖なる秘跡において、天国において、復活したイエスの真の現存への信仰です

私たちは復活の民であるべきです。復活の祭日であるイースターは、私たちが「復活の民」であるという嬉しいメッセージを与えてくれます。私たちが罪や、悪い習慣や、危険な悪癖の墓の中に埋もれることはないだろうということを意味しています。絶望や、失望、疑い、また死の墓などどんな墓もこれ以上私たちを押しこめることはないだろうというよい知らせです。私たちは、人生の全ての出来事の中で、復活された主の真の現存を常に体験する嬉しい、平和な生活をします。「それは主が整えられた日、われらはそれを喜び、楽しもう」(詩編118：24)。

イースターは、受難の金曜日において思い出す必要があります。私たちの人生におけるあらゆる受難の金曜日にはイースター・サンデイがあること、そしてイエスは復活の力を私たちに分けてくださるということをイースターは思い出させてくれます。他者の愛を表わすときにはいつでも、復活を分かち持ちます。信頼を裏切られたときにはいつでも、イエスの復活を分かち持ちます。誘惑を防ぎそこない、それを克服しようとし続けるとき、私たちは復活を分かち持ちます。希望し続けるとき、私たちの希望が応えられないときでも、イエスの復活の力を分かち持ちます。一言でいえば、イースターのメッセージとは、苦しみも、罪も、拒否も、死も、何であれ、私たちを滅ぼすことはできないということです。何故なら、キリストはこれら全てを克服し、キリストに信仰を持つならば私たちも克服することができるのです。

私たちは復活の力というよい知らせの運び手となるべきです。復活はよい知らせですが、同時に死を伴うものですから、ときに苦しいものです。復活の力が私たち自身の生命の中に根をおろす前に、罪に死に、自我に死ぬことを求められています。私たち自身の夢に死ぬことさえしなければならぬかもしれないかもしれません。そうすれば神は私たちに望みのことをすることができます。復活は世界を新しいやり方で見ることです。イースターの朝早く、マリアは探しているもの、イエスの亡骸は見つけられませんでした。しかし、マリアは想像以上のもの、ずっとよいものを見つけました。復活したイエスです。ときに一番欲しいと思っているものは与えられません。代わりに、世界で働く神の新しいやり方を体験するのです。それは復活の力です。その瞬間が来たとき、マリアが「私は主を見ました」と広めたように、私たちもその知らせを広めなければなりません。

親愛な友人の皆さん、イースターおめでとうございます！

皆さんの心が復活したキリストの光で満たされますように！

(Sr. Paulina)

いかがおすごしですかと、友人と近況の報告をし合う時などに、このところ私は、出かけることは全然ないの 「病床六尺」ってところなのよと、よく言っています。

実際のところこの数年というもの、それは夫の健康上の具合から余儀ないことではあるのですが、日曜日早朝に教会へ行く以外には、電車やバスに乗ることはありません。家から徒歩10分以内の範囲の中で、老夫婦の生活のすべてがまかなわれています。幸いなことに便利というのでしょうか、徒歩10分以内の小さな範囲の中に、日々生活に必要なものは、医療機関も含みデパート、郵便局などすべて揃います。「病床六尺」などという言葉のみだりにむやみに口走り、自分をなぞらえたりすることはとんでもないことで、正岡子規さまにはほんとうに無礼な大それたことと、身の縮む思いはあるのです。

しかし一方で今、余儀なくされるこの生活に意を留めてみたいと心の底に動くものあって、そこに届きたい触れてみたいと深く引きよせられる感じを持っているのです。

唐突なことでしたが、あらためて子規の「病床六尺」の生活に思いをむけ、考えをめぐらせることとなりました。

周知のことですが正岡子規は35歳の若さで世を去ります。

人生の大半を病とともに生きるのですが、最後の6年ほどはカリエス罹患のために歩行困難となり、悪化にともない寝返りすら不可能な寝たきりの状態となります。六尺という布団一枚分の病床が生活の、人生のすべてであり、限られたその世界を子規は「病床六尺」と呼んで、この世界の中で死を目前にした若い生命をおう歌し、燃焼し尽くすのです。

「病床六尺」と題した随筆を新聞に連載し、それは死の二日前まで続けられました。随筆を書き、俳句短歌を詠み、こうした文芸活動のみならず、親しく訪ねてくる友人たちと歓談し、身の囲りに見える草花や果物を仰向けのままで写生し、そしてまた食べることへの飽くことない食欲さを楽しんでいます。

当然のことですが、時に耐え難い痛みに泣き叫び、時に絶望に襲われ自殺を思い、モルヒネを日常に手放すことはできません。

子規のもとに集うたくさんの友人たちは、夏目漱石をはじめとして高浜虚子、伊藤左千夫、長塚節などなど、私たちが教科書で習うようなそうそうたるメンバーです。これらの若い面々が集い語らうことのどんなにか心ゆく時間であったろうかと、遠く羨望感嘆をこめて思い描いてみます。

そして、私が今回特に心奪われたことがあるのですが、それは初めて知った子規の絵です。

病床から見える草花などの写生画をたくさん残しているそうですが、そのいくらかを画報で見てほんとうに魅了されました。 うっとりとしみじみと見入りました。

このような絵のさまを、どんなふうに言い表したらよいのかわかりません。

賢し気でなく、いささかのてらいも気取りもなく、ひっそりと素直です。何てことはないと言いたい絵です。 だからこそなのでしょう、見つめるこちらの心が清らに浄化されるような気持ちになるのです。 私の内からも、こんなふうな絵が生まれてきたらどんなにうれしいことかと、私もこんな絵が描けたらと思わずにはいられません。

このような絵を描く子規に、私は新しく親しみの心を寄せました。

「枕ニ頭ヲツケタママヤル者ト思ヘ モルヒネヲ飲ミテ後ヤル者ト思ヘ」と画帳に書きつけがあるそうです。

考えるまでもないことですが、私たちの人生も病気であっても病気でなくても、必ず課せられるものはあるのです。

生きることは、どう望もうとも思うようにはならないことだらけです。 このことは年を重ねてくると、達観というよりも何処かからの贈り物のような深い諦念でさえあります。

「病床六尺」を生き尽くした若い生命を賛え、いとおしみつつ、80年生きのびたこの生命の底に動くものを今また顧み、そうなのだこのことを生きるのだと深く導かれ、思い知り、確かめます。

私が今していること、私が今すべきこと、私が今したいこと、これがひとつになっていること。 私の内でそごをきたしていないこと。

その昔、鼻から吹き入れられた生命の息を息して、今ここにあることに心をひらいて今日を生き、明日を生きたいと願います。 願い続けます。

筆ちびて かすれし冬の 日記哉

子規

# いのちの言葉 3月

神の国はあなたたちのところに来ているのだ。

(ルカ11・20)

神の国の到来こそ、当時のユダヤ民族が待ち望んでいたことでした。イエスは村や町々を巡り歩き「神の国はあなたがたに近づいた」(ルカ10・9 参照)と告げ始め、やがて「神の国はあなたたちのところに来ているのだ」「神の国はあなた方の間にあるのだ」(ルカ17・21)と語り始めました。イエスを通して、神ご自身が民の間に来られ、御自らの力と決断をもって人類の歴史をそのみ手にとり民を導かれました。イエスが行われた奇跡の数々はその印と言えるでしょう。

今月の「いのちの言葉」が記された福音の箇所を読むとイエスがまず悪霊にとり憑かれ口の利けない人を癒す場面が登場します。このエピソードは、あらゆる悪に打ち勝ったイエスがいよいよ神の国を打ち建てるために到来されたことを暗示しています。

ユダヤ民族にとって、「神の国」という時、次のような意味が含まれています。「常にイスラエルの民のために働かれ、いかなる隷属状態や悪からも民を解放し正義と平和へと導き、喜びと善で満たして下さる神の姿」、さらに「イエスが示された慈しみと愛に満ちた『父』としてご自分の子らの必要や苦しみを分かって下さる神の姿」がそこにあります。

現代にあっても、私たちは「神の国はあなたたちのところに来ているのだ」というイエスの呼びかけに耳を傾ける必要があるでしょう。周りを見渡せば、まるでこの世は悪に支配され、暴力や不正が勝ち誇っているかのようです。また悪の力や脅威に何もできず災害、紛争、略奪行為、または大規模な気候変動や難民問題、経済・金融の破綻などを前にすると無力感に襲われることもしばしばでしょう。

しかし、まさにこうした状況の中でこそ、イエスは悪に打ち勝ち、新しい世を創ろうとされている、これを信じるようにとイエスは「神の国はあなたたちのところに来ているのだ」と語られるのです。

今から25年前、キアラ・ルービックは大勢の若者を前にこう語りました。「私の夢を皆さんに託します。私の夢はこの世をもっと良いものに変え、世の人みんなが地球という国家に属する唯一の家族となって互いに支え合い、一致した世界を築いていけるようにという夢です。」と。

25年前も今日と同様に、この夢はユートピアのように聞こえました。でもキアラは、若者たちに、この夢を実現させるためにお互いの愛を生きましようと呼びかけ、相互愛さえあれば「キリストご自身が必ず私たちの間におられます。全能の方が私たちの味方ならどんな願いも叶うでしょう」と語りました。

イエスご自身こそ、まさに神の国そのものなのです。私たちにできることはイエスが常に私たちの間におられるようにすること、そうすれば「イエスご自身が皆さんと一緒にそれぞれの国で働かれます。この地上のどこにいても、皆さんの相互愛、一致に惹きつけられて、イエスは再び世に戻って来られます。仕事や学業、人生の選択といったあらゆる場面で彼が光を投げ、道を照らし、支えて下さいます。イエスこそが皆さんの力、心を燃やす方、皆さんの喜びとなるでしょう。このイエスの存在は周りの世界に調和をもたらし、様々な分裂はなくなるでしょう。必要なのは愛、皆さんの間の愛、地上のあちこちに蒔かれた愛です。人と人、グループや国同士の間蒔かれた愛。こうした愛が皆さんの手を借りて浸透し、あらゆる手段を用いて広がっていき、いずれ誰もが待ち望む『愛の文明』が現実のものとなりますように。皆さんはそのために呼ばれています。そしてきっと皆さんは偉大なことを目にするでしょう」。1

ファビオ・チャルディ神父

注1) 1990年3月31日ローマで開催された第5回ジェンフェスト（一致した世界を目指す若者の国際フェスティバル）でのキアラのスピーチ、チッタノーバ誌1990年34号p. 34-39参照

\*2016年度の「いのちの言葉」は、フォコラーレ本部のファビオ・チャルディ神父によります。

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

#### ●お知らせ

いのちの言葉の集い

関東 3月13日(日) 13:30～ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室  
(週日に、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

中部 3月13日(日) 14:00～ 瀬戸市みずの坂サポートハウス「ゆうや」

近畿 4月24日(日) 13:30～ 大阪 カトリック香里教会

フォコラーレの集い

とき 3月12日(土) 10:30～16:00

ところ 聖イグナチオ教会・ヨゼフホール(四ツ谷駅から徒歩1分)

連絡先:フォコラーレ 03-3707-4018/03-5370-6424

長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ: [conil157chl.wix.com/focolare-jp](http://conil157chl.wix.com/focolare-jp)

## 糸巻き棒からペンへ(7)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD



テレサ・デ・セペダ・イ・アウマーダは、西欧のルネッサンス期の、プロテスタントの宗教改革とトレント公会議の時代を生きました。その中で、彼女は、ロッテルダムのエラスムスやマルティン・ルターやミゲル・アンヘル・ボナロッチェやバルトロメ・デ・ラス・カサスやカルロス5世やフェリペ2世と同時代人でした。

時代は、複雑な時代でした。アメリカ大陸の発見やアフリカ・アジアの西欧列強の征服による、地理上のとてつもない変革は、世界の概念を拡張しました。中世の社会（農業と生活必需品だけの農村文化）は、新しい現実（商業や職人の工場がますます重要となる市民文化）へと推移していました。社会的経済的変化は、新しい政治構造（近代国家の発生）や文化構造（大学や印刷は思想の伝達において根本的な重要性を獲得していました）を伴っていました。生きることや考えることの全領域に影響を及ぼす、真に時代の転換があったのです。それはまた、宗教の実践形態にも影響を及ぼしました。

時の隔たりを除外すれば、今日の私たちの時代に起きていることに多少似ていました。そこでは、社会や教育や政治や宗教の古い構造が、どこへ向かっているのかははっきり予測できずに、危機に陥っていたのです。

### 16世紀のカスティリヤ

テレジアは、カスティリヤに生まれ、そこで生きました。カスティリヤは、スペインの中心で、西欧における政治や文化の方向、またファッションの方向すら指し示していました。その時代に、スペインの「カトリック王国」は、経済的にも軍事的にも政治的にも最大の権力を達成しました。いわゆるスペインの「黄金時代」です。サラマンカやアルカラの大学は、ヨーロッパ水準での文化指標でした。美術は、スペインの町や村においていまだかつてないほどの発展と創造性を示していました。いたるところ、寺院や宮殿や病院や公衆の建物や噴水で一杯になっていました。

その時、ホアン・デル・エンシーナやトマス・ルイス・デ・ヴィクトリアは作曲し、ガルシラソ・デ・ラ・ヴェガやルイス・デ・レオン修士やロペ・デ・ヴェガやルイス・デ・ゴンゴラやミゲル・デ・セルヴァンテスは著述しました。建築家や彫刻家、イタリアやフランドルの画家が、スペインの町に定住しました。





“わたしたちの内におられるキリスト、栄光の希望”

## 第51回世界聖体大会 フィリピンで開催

世界聖体大会とは：信仰生活と教会の宣教において聖体への意識を高めること、典礼への理解と祭儀を共に祝うことを助け改善すること、社会的側面に注目することを目的とする、カトリックの聖職者と信徒の国際レベルでの大会で、4年ごとに開催地を変えて行われる。今年の国際聖体大会は、第1回目開催の1881年から数えて第51回となる。

フィリピンのセブ市で1月24日から31日の8日間開催された「第51回世界聖体大会」は、世界75ヶ国から教皇特使をはじめ枢機卿、司教、司祭、修道者、信徒を含む1,200名の公式代表者に加えて、フィリピンから約13,000名の参加により執り行われ、テーマ“わたしたちの内におられるキリスト、栄光の希望”を掲げて多様なプログラムが連日熱意あるプログラムが展開されました。



教皇特使ミャンマーのチャールズ・ボー枢機卿は、開会式荘厳ミサで、「教皇フランシスコは、わたしたちへの親愛を込めてこの大会を見守り共にいてくださいます。世界中からわたしたちをここに呼び集められた主キリストの御体は、わたしたちを宣教に派遣される愛の聖体、貧しい人と分かち合う正義と一致の聖体、争いの中での平和と癒しの聖体です。」と挨拶されました。日本からは、団長勝谷司教様と副団長押川司教様のもと企画された「世界聖体大会公式巡礼団」に司祭、修道者、信徒を含む30名が参加しました。

### ☆ハイライト

#### 【カテケシス】

- |                          |                       |
|--------------------------|-----------------------|
| 「わたしたちの内におられるキリスト、栄光の希望」 | ミゲル・ビダルテ司教（ペルー）       |
| 「聖体と過ぎ越し祭の神秘」            | ロバート・バロン司教（U.S.A.）    |
| 「聖体と宣教、宣教と対話」            | トマス・メナンバランピル司教（インド）   |
| 「聖体と創造の保護」               | ピーター・K. タークソン枢機卿（ガーナ） |
| 「聖体と現代文化の対話」             | ルイス・A. タグレ枢機卿（フィリピン）  |
| 「若者のうちのキリスト、栄光の希望」       | ロバート・バロン司教（U.S.A.）    |
| 「聖体と貧しい人、苦しむ人との対話」       | ジョン・オナイカン枢機卿（ナイジェリア）  |
| 「聖体と教会の諸宗教対話」            | オスワルド・ガルシア枢機卿（インド）    |
| 「聖体と聖母マリア」               | ティモティ・ドラン枢機卿（U.S.A.）  |

#### 【信仰の証言】

- |                          |                   |
|--------------------------|-------------------|
| 「中国の殉教者と迫害されている教会のための祈り」 | ヨゼフ・ゼン枢機卿（香港）     |
| 「信仰生活の世俗化における聖体」         | マリアン・サルヴァース（ベルギー） |

「世界を旅する曲芸師としての信仰生活」  
「東日本大震災と津波からの体験」  
「元ストリートチルドレンが、今彼らの養育者に」  
「恐怖からの脱出」

パウロ・ポンスと家族（スペイン）  
菅原圭一（日本）  
ジョージア・コルタス（フィリピン）  
サリンドホン・マティバチラノン（タイ）

### 【分科会】

「聖体と対神徳」、「聖体と希望の多面性」、「み言葉の受肉イエスと聖体」、「教会における女性の宣教司牧の役割」、「聖体が教会を生み、教会が聖体を生む」、「聖体：贖いの杯、神の国の饗宴」、「貧しい人の足を洗う：聖体と司祭職」、「宣教と民衆信仰」の分科会が活発に持たれ、「祈りましょう。宣教の心臓は祈りです。」で一致。



### 【現地の教会聖体訪問と信仰の分ち合い】

大会参加者は、グループに分かれて、現地のセブ大司教区カテドラル、絶えざる御助けの聖母教会、イエスの聖心教会、サントニーニョ（幼きイエス）教会、ロザリオの聖母教会、聖母の不思議のメダイ教会を訪ね、聖体訪問後に現地信徒と信仰の分ち合いの交わりの時を持ちました。

【祈りと赦しの秘跡】大会中、聖堂で司祭達が連日告白を聴き大会全体がより聖化されました。

### 【聖体行列】



大会のクライマックスの聖体行列は、29日の夕方から夜にかけて市内の大通りで、護衛を先頭に荘厳に聖体のあとに続いて、夜になると150万人が手に手にロウソクを灯して3kmの道のりを祈りの先唱に唱和しながら4時間の道のりを行進しました。全行程の沿道には、学生たちの笑顔の歓迎の声援が絶え間なく湧き起こり、参加者は疲れを忘れひとつの聖体の民となって歩きました。その光景は、まるで光の海のように、夜空の星のひかりと呼応して輝きながら移動しました。

### 【若者の野外ミサと初聖体式】--- 文化の祭典“サントニーニョフェスティバル” ---

フィリピンは人口の50%が若者で、この世界大会に大勢の青年男女が参加し活躍しました。この野外ミサでは青少年聖歌隊の明るい歌声が響き、小学生7,000人が初聖体の秘跡を受け、家族と代父母の喜びが会場を満たしました。1937年の第33回フィリピンでの世界聖体大会で、ご自身が初聖体を受けられたセブ大司教区のリカルド J. ヴィダル枢機卿は、感慨深く若者ミサを終始笑顔で司式されました。

ミサの閉幕と同時に、セブ文化の祭典“サントニーニョフェスティバル”民族舞踊の行進が初聖体の祝賀のパレードを繰り広げ、ステージでは青少年による見事なサントニーニョを讃えるパフォーマンスが披露されました。サントニーニョで親しまれる、セブの守護者“幼きイエスズ”は、1521年にポルトガル人の航海探検家マジェランがフィリピンのセブ島に上陸し、セブ王とその家臣をフィリピンで初めて洗礼に導いた時に、幼きイエス像を王妃に贈呈した歴史によるものです。



この祭りは、セブのキリスト教文化として根を下ろして開花し、現在も代表的な祭典として毎年1月17日に教会で受け継がれています。フィリピンはマジランの上陸から数えて、2021年に宣教500周年を迎えます。

#### 【聴覚障害者のための手話とワークショップ】

すべてのミサとカテケシスには世界中から参加した聴覚障害者の共同体が結成され、特別席が設けられて、連日手話通訳がなされました。彼等のために幾つかのワークショップも企画されました。

#### 【ボランティア】

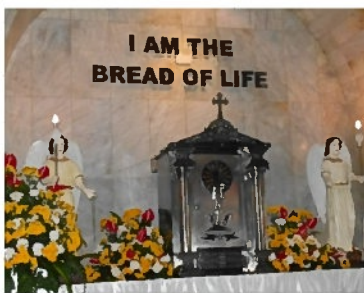
大会を陰となり日向となって支えるボランティアは、5,000人のほり、市民と教会が一体となって奉仕されました。中には日本からセブのマザーテレサの施設で奉仕活動をしている若い女性や、セブ在住でフリピン女性と結婚した日本の信徒の方もおられました。

#### 【閉幕野外荘厳ミサ】

最終日の閉幕式ミサは教皇特使 ミャンマーのチャールズ・ボー枢機卿の司式で行われ、枢機卿は、約百万人の聴衆を前にして「わたしたちは、世界中から参加した兄弟姉妹と共にこの8日間山上の主のテーブルにつき、あらゆる面から宣教の源とゴールである聖体を探求し、皆がひとつになってみ言葉と聖体で霊的に豊かに養われました。これは、まさに終末的な神の国の普遍的な兄弟愛の現れです。キリストの教会である聖体共同体は“わたしたちの内におられるキリスト、栄光の希望”です。」と挨拶され大拍手のうちに派遣の祝福を贈られました。



#### 【教皇のビデオメッセージ】



ミサに続いて教皇のビデオメッセージで聖体大会のテーマ、「あなたがたの内におられるキリスト、栄光の希望」（コロサイ1,27）を掲げられた教皇は、復活されたイエスは常にご自身の教会の中、また特に聖体の中に生き、現存しておられると強調されました。そして、わたしたちの間におけるキリストの現存は、単なる慰めではなく、永遠の喜びと平和の約束、また御父の優しさと赦しをすべての人に伝えよとの、宣教への招きでもあると述べられました。紛争や不正、人道危機の広がる今日の世界で、このメッセージがいかにか必要とされているかと説く教皇は、いつくしみの聖年にあたり、傷ついた人類に神の愛のいつくしみの香油をもたらし、絶望のあるところに希望を運ぶことができるようにと願われました。

終わりに、次の世界聖体大会は2020年にハンガリーの首都ブダペストで開催される、との発表がなされると会場に歓声が沸き起こり喜びの内に世界聖体大会が閉幕されました。

# 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



ORDEN  
CARMELITAS DESCALZOS  
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

2016年1月25日

## “Communications” とインターネットの新しい担当者

ローマ発

1月18日にイベリア管区のフリオ・アルマンサ・カレロ神父は、聖地イスラエルに出発しました。彼は、宣教部門の事務局長として六年間務めた後、広報部門の事務局長に任命されていましたが、出発まで任務を遂行しました。

彼の後継者は、同じイベリア管区のエミリオ・J・マルティネス・ゴンザレス神父で、彼は目下、ローマのカルメル会国際神学院の教授共同体に属し、教鞭をとっています。51歳のエミリオ神父は、これまでの6年間、第一総長顧問を務めました。彼は、この新しい任務に、教皇庁立カルメル会国際神学院と霊性研究所における教授職とのバランスをとって奉仕することになります。

私たちは、この二人の司祭の奉仕と有能さに深く感謝し、これから就任する新しい任務の上に豊かな祝福をお祈りします。

私たちは、彼らの仕事と協力に対し、心から二人に感謝いたします。二人に任せられた新しい奉仕活動の上に神の豊かな祝福があるように祈ります。



# 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>  
の記事を紹介します。

<< **Communications** (時事通信) >>

30//12//2015

## **Activities of the General Government**

The Father General, accompanied by his secretary, Father Rafal Wilkowski, will make a fraternal visit to Chile. They will stop by the different convents and monasteries of the Teresian Carmel in that country and will have the opportunity to meet the Teresian family there and meet with the nuns' association.

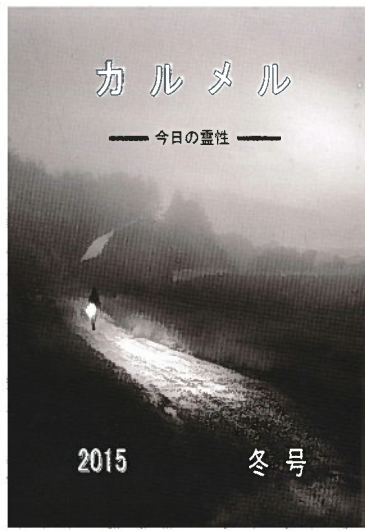
Father Agustí Borrell, vicar, plans to visit the International Teresian-Sanjuanist Center and the Commissariat of Sicily.

In America, Father Javier Mena will visit our presences in Peru, Ecuador, Bolivia, Uruguay, and Paraguay, while Father Daniel Chowning makes a fraternal visit to the Oklahoma Province and later returns to Europe to visit the Paris and Anglo-Irish provinces.

In India, Father Johannes Gorantla will visit the Tamil-Nadu Province, the Orissa y Chhattisgarh Provinces, the West Bengali Vicariate, and the Ranchi Delegation during the first months of 2016.

We accompany our superiors with prayer, wishing them good travels and the company of the Holy Spirit in their work of encouraging the Order.

「カルメル」  
今日の靈性・冬号  
今日の靈性・秋号



2015 冬 No.359

2015 秋 No.358

神が慈しまれた道 (8)

奥村一郎 50

西行と芭蕉の靈性  
——「空」と「枯野」に行く心

田畑邦治 43

マリアの信仰

ポリン・フェルナンデス

37

歴代教皇の寸描  
——ピオ十二世からヨハネ二十三世へ

高橋重幸 32

聖人  
ルイとゼリー (4)

中山眞里 25

聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて  
——山頂への眺め  
マリー・エウジエンヌ  
編・訳 伊従信子

18

風に吹かれて  
——ある情景 (6)

原 造 16

エディット・シユタインの著作に見るアビラの聖テレサ  
——祈りの真髄

9

修道生活の改革  
——アビラの聖テレシアの理想

九里 彰 3

《今年の特集 聖テレシアと奉獻生活》

● 目次 ●

エディット・シユタインとアビラの聖テレサが巨匠したもの  
——魂の城 (2)

須沢かおり 16

イエスの聖テレサと男子蹠足カルメル修道会についての考察 (3)

松田浩一 9

修道生活の改革  
——アビラの聖テレシアの理想 (3)

九里 彰 3

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+送料【700円】計3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 蹠足カルメル修道会  
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

# カルメル会の企画案内



# 《カルメル会 四旬節講話シリーズ》

神のいつくしみに学ぶ

—特別聖年を迎えて—



日時： 2月14日（日）： 三上 和久神父（カルメル会司祭）  
「福音と家庭、教育の原点である神のいつくしみ」

2月21日（日）： 今泉 健神父（カルメル会司祭）  
「いつくしみの泉である教会」

2月28日（日）： 松田 浩一神父（カルメル会司祭）  
「神のいつくしみのうちに真理を学ぶ —イエスの聖テレサの場合—」

3月6日（日）： Sr. 伊従 信子（ノートルダム・ド・ヴィ）  
「神のいつくしみ ～テレーズの果てしない希望～」

3月13日（日）： 九里 彰神父（カルメル会司祭）  
「十字架の聖ヨハネを捕らえた神のいつくしみ」

日時：上記各日曜日、午後二時半開始、入場無料（講話後、主日ミサ）  
〈カルメル修道会主催〉

場所：カトリック上野毛教会聖堂

（東急大井町線上野毛駅下車 徒歩7分）

世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル修道会 [TEL:03-3704-2171](tel:03-3704-2171)



# \*\*\*\*\*日帰り黙想会\*\*\*\*\*

## ☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニモは言いました。  
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25)信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように…。

**場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)**

**指導：福田正範神父**

\*企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。

午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時~ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加・・・¥2000、午前からのご参加・・・¥3500

**日時： 2016年 3月11日(金) 午後1時30分~午後4時**

4月28日(木) ”

5月13日(金) ”

5月26日(木) ”



お問合せ・お申込み+

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789 Eメール:

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

## 上野毛霊性センター 2016年4月～2017年3月

### 黙想企画 \*\*上野毛聖テレジア修道院(黙想)\*\*

#### 1. 祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時  
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。  
2016年 3月24日(木)夕食～27日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時  
2016年12月24日(土)～25日(日)朝食《講話なし、夕食なし》

#### 2. 日帰り一日黙想会 13時30分～16時 福田正範神父

[聖人たちを支えた神のことば]

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことである”と聖ヒエロニモは言いました。第二バチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト信者は、しばしば聖書を読んでキリストを知る素晴らしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように……。

2016年

4/28 (木)、5/13 (金)、5/26 (木)、6/24 (金)、6/30 (木)、  
7/8 (金)、7/21 (木)、9/8 (木)、9/16 (金)、10/28 (金)、  
11/11 (金)、11/24 (木) 12/9 (金)、12/22 (木)

2017年

1/12 (木)、1/27 (金)、2/9 (木)、2/24 (金)、3/9 (金)  
3/24 (金)

\*申し込みは、3か月前より受付致します。

#### 3. 奉献生活者のための黙想会

2016年

7月31日(日) 18時～	8月 9日(火) 朝	福田正範神父
8月12日(金) 18時～	8月21日(日) 朝	福田正範神父
10月13日(木) 18時～	10月22日(土) 朝	福田正範神父
12月27日(火) 18時～	2017年1月5日(木) 朝	福田正範神父

4. 青年黙想会(男女)

2016年

4月16日(土) 16時～17日(日) 16時

11月26日(土) 16時～27日(日) 16時

5. 召命黙想会(男女)

2016年

10月8日(土) 16時～10日(月) 16時

6. 聖週間前の黙想会 福田正範神父

2017年

3月 18日(土) 18時夕食～20日(月) 16時

7. 特別黙想会 Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2016年

5月27日(金) 20時～29日(日) 16時

10月28日(金) 20時～30日(日) 16時



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願い致します。

間違いを避けるためなるべくFAX・はがき・Eメール等でお願ひできますならば幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel : (03) 5706-7355 Fax : (03) 3704-1789

Eメール : mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>

## 聖週間前の黙想会

過ぎ越しの子羊・キリスト

日時：2016年3月18日（金）18：00～20日（日）15：00

指導：福田正範神父（カルメル会司祭）

場所：カルメル会上野毛聖テレジア修道院黙想の家

会費：¥12,000



お問合せ、お申込み：TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

## 聖週間の典礼に参加するための黙想会

---

聖なる過ぎ越しの三日間の典礼に参加し、黙想しましょう。

\* 日時: 3月24日(木)夕食～27日(日)朝食後 10時まで

24日(木)は、午後3時より入室できます

\* 費用: 一泊¥5000(一泊から可)

\* お問合せ・お申込みは、上野毛聖テレジア修道院(黙想)

電話: 03-5706-7355 FAX: 03-3704-1789

Eメール:mokusou@carmel-monastery.jp

### \*\*\*\*\*上野毛教会聖週間の典礼ご案内\*\*\*\*\*

3月24日	聖木曜日	6:30	読書の祈り・朝の祈り
		19:30	主の晩餐の夕べのミサ 洗足式
3月25日	聖金曜日	6:30	読書の祈り・朝の祈り
		15:00	十字架の道行
		19:30	主の受難
3月26日	聖土曜日	7:00	読書の祈り・朝の祈り
		18:30	復活の聖なる徹夜祭 洗礼式
3月27日	復活の主日	7:00	8:30 10:30 18:00

## 2016年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

### 【一般のための黙想】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)	4月16日(土)～17日	復活したイエスを探しつづける私たち	中川博道神父
	5月6日(金)～8日	イエス:いつくしみの愛のもとに留まる	中川博道神父
	9月10日(土)～11日	人生の実りを思いめぐらす	中川博道神父

### 【聖書深読黙想会】

・ 1日	2月6日(土)	9月10日(土)	中川博道神父
	4月9日(土)	10月22日(土)	中川博道神父
	5月14日(土)		中川博道神父
	6月11日(土)		中川博道神父

### - 水曜の黙想

(午前10時～午後4時)	3月16日(水)	キリストの過ぎ越し	松田浩一神父
	4月20日(水)	イエスと共に日々を振り返る	シスターロサ
	5月18日(水)	神のいつくしみの啓示者イエス。キリスト	松田浩一神父
	6月8日(水)	神のいつくしみとイエスの聖テレサ	松田浩一神父
	7月20日(水)	神のいつくしみと十字架の聖ヨハネ	松田浩一神父
	9月21日(水)	神のいつくしみとエディット シュタイン	松田浩一神父
	10月19日(水)	神に愛されている喜び	シスターロサ
	11月16日(水)	いつくしみの御母、聖マリア	松田浩一神父

### キリスト教霊的同伴

午後8時～午後3時まで (金)夕食なし	3月18日～19日(土)	10月21日～22日(土)	松田浩一神父
	4月22日～23日(土)	11月11日～12日(土)	松田浩一神父
	6月03日～04日(土)	12月2日～3日(土)	松田浩一神父

### - 四旬節の黙想

(午後5時～午後4時)	3月5日～6日(土)	問題性から脱出すること	中川博道神父
-------------	------------	-------------	--------

### - 待降節の黙想

(午後5時～午後4時)	12月10日(土)～11日(日)	夜露のように静かに訪れる神を待つ	中川博道神父
-------------	------------------	------------------	--------

### - 聖テレサの黙想

(午後5時～午後4時)	9月30日(金)～10月1日(土)		伊徒 師
-------------	-------------------	--	------

### カルメル青年の集い

(午前10時～午後4時)	4月29日(金)	11月23日(水)	松田浩一神父
--------------	----------	-----------	--------

### 一般のためのカルメルの霊性セミナー

(午後5時～午後4時)	2月6日(土)～7日(日)	カルメルの最初の隠修士の霊性	松田浩一神父
	5月2日(月)～5日(木)	イエスの聖テレサと十字架の聖ヨハネの霊性(1)	松田浩一神父
		イエスの聖テレサと十字架の聖ヨハネの霊性(1)	松田浩一神父
	10月14日(金)～15日(土)	イエスの聖テレサの霊性	松田浩一神父
	12月13日(火)～14日(水)	十字架の聖ヨハネの霊性(2)	松田浩一神父

奉献生活者の黙想 (午後5時～午前9時)	8月2日(火)～11日(木)		中川博道神父
	8月15日(月)～24日(水)		松田浩一神父
	12月27日(火)～1月5日(木)		松田浩一神父
English Retreat (10am to 4pm)	5月28日(土)	Come to me you broken hearted.	シスター・ロサ
	11月26日(土)	Maranatha-Come Lord Jesus	シスター・ロサ

**祭日のミサに参加するために**

- 【聖週間を祈る】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時  
 聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。  
 3月31日(木)～4月3日(日) [講話なし、各食事つき]
- 【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30  
 12月24日(土)～12月25日(日) [講話なし、各食事つき]



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
 宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)  
 Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457  
 E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

# 『社会人のための霊的同伴』

## — 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

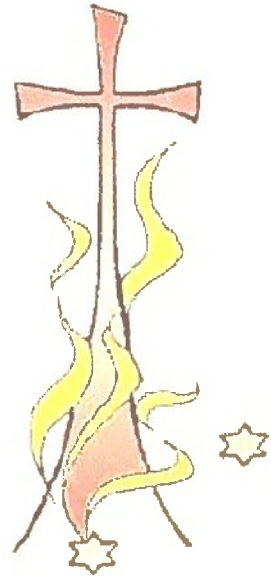
### 【内容】

- この企画は、キリストと各人との人格的交わりを深めるものでありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにした祈りのひと時です。

### 【参加者人数】 6名

【開催日】 2016年 2月19日(金)～20日(土)  
3月18日(金)～19日(土)  
6月 3日(金)～ 4日(土)  
7月 8日(金)～ 9日(土)  
9月 2日(金)～ 3日(土)  
10月21日(金)～22日(土)  
11月11日(金)～12日(土)  
12月 2日(金)～ 3日(土)

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 6,500円

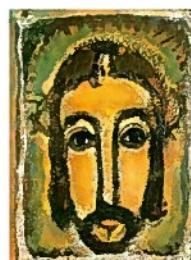
【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12  
カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)  
Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457  
E-Mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)



# 《 名古屋一日静修 》



神のいつくしみに学ぶ — 特別聖年を迎えて —

1. 日時：1月23日（土）「いつくしみの特別聖年について」  
九里 彰 神父  
3月21日（月）「十字架の聖ヨハネを捕らえた神のいつくしみ」  
九里 彰 神父  
5月21日（土）「神のいつくしみのうちに真理を学ぶ  
—イエスの聖テレジアの場合—」  
松田 浩一 神父  
7月18日（月）「神のいつくしみの生きた証人となれ…  
（福者フランシスコ・パラウと他）」  
Sr. ポーリン・フェルナンデス（カルメル宣教修道女会）  
9月19日（月）「いつくしみの泉である教会」  
今泉 健 神父  
11月23日（水）「神のいつくしみ ～テレーズの果てしない希望～」  
Sr. 伊従 信子（ノートルダム・ド・ヴィイ）
2. 場所：カトリック日比野教会 信徒会館  
（地下鉄・名港線日比野駅下車 徒歩約5分）
3. 参加費：1000円
4. 持ち物：聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当
5. プログラム  
10：00 導入の祈り（聖堂）  
10：20 第一講話（信徒会館）  
11：30 念祷 ① 赦しの秘跡または面接  
12：00 昼食（信徒会館）  
12：30 念祷 ② 赦しの秘跡または面接  
13：00 第二講話  
14：00 念祷 ③  
14：30 ミサ（聖堂）  
15：30 茶話会（信徒会館）  
16：00 終了の祈り
6. 申し込み：下記いずれかの方法でお申込み下さい。  
FAX / 0568 - 62 - 5167  
mail / seisyuu\_2015@yahoo.co.jp  
ハガキ / 〒484-0076 犬山市橋爪一丁田 1-26  
「名古屋一日静修」係り

〈カルメル修道会主催 名古屋カルメル在世会協賛〉

## 霊性センター

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

## 土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語り、またご聖体のイエス様と  
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ  
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)



# 奥村一郎選集

## 追悼 奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を  
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも **本体 2000 円**+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻



### 慈悲と隣人愛 解説・西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。カトリックから禅へ/小事と瑣事/禅とキリスト教における靈的修行

第2巻



### 多文化に生きる宗教 解説・橋本裕明

宗教対話と霊性交渉から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。大いなる贈け—宗教対話/日本人とキリスト教—遠藤文学の魂

第3巻



### 日本の神学を求めて 解説・小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。日本の神学—根源への問い/相互愛/「信ずる」と「愛する」/新しい掟

第4巻



### 日本語とキリスト教 解説・阿部仲麻呂

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。日本人の心とその精神構造/「ことば」から「みことば」へ/聖書と翻訳

第5巻



### 現代人と宗教 解説・鶴岡實雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っているのか。現代人とキリスト教/偶像の喪失/屈辱/「新しい人」としての真人

第6巻



### 永遠のいのち 解説・八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛—人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。嬰兒復帰/人間の栄光と悲惨/神は死せり/十字架の秘義/人間と世界と神

第7巻



### カルメルの霊性 解説・高園泰子

愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。アビラのテレジア/十字架のヨハネ/小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻



### 神に向かう〈祈り〉 解説・高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。考える祈り、思う祈り、愛する祈り/現代における祈りの指導者/祈りとは何か?

第9巻



### 奉獻の道 解説・宮本久雄

すべての人にみずからを与えつくす奉獻生活を通して、人間そのものの神秘を見つける。清らかな矛盾/世を変えるパン種として/清貧の誓願/現代に生きる修道者の霊性

カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

# 諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター  
真命山 霊性交流センター  
リーゼンフーバー神父キリスト教講座  
ノートルダム・ド・ヴィ  
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院  
サダナ瞑想  
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。  
よろしくお願い致します。



## 諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

### 心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」藤原神父  
FAX 072・802・5026 Eメール [fujinao1944@nifty.com](mailto:fujinao1944@nifty.com)  
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

#### 2016年予定

N1	02/26 (金) -03/03 (木)	滋賀唐崎・ノートルダム
N2	05/07 (土) -05/13 (金)	滋賀唐崎・ノートルダム
K1	06/13 (月) -06/19 (日)	東京・小金井・聖霊会
K2	10/01 (土) -10/07 (金)	東京・小金井・聖霊会
N3	10/20 (木) -10/26 (水)	滋賀唐崎・ノートルダム
K3	12/05 (月) -12/11 (日)	東京・小金井・聖霊会

#### 2017年予定

N1	05/07 (日) -05/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
N2	10/10 (火) -10/16 (月)	滋賀唐崎・ノートルダム

年間のテーマ

イエスとの出会い  
その喜びを味わう

(レクティオ ディヴィナ)



2016年度行事のご案内

祈りの集い(10時~15:00時)

1月14日	イエスの誕生 (ルカ 2:1-14)	9月08日	ベトザタの病人 (ヨハネ 5:1-18)
2月11日	アンデレ (ヨハネ 1:35-43)	10月13日	マグダラのマリア (ヨハネ 20:11-16)
3月10日	ニコデモ (ヨハネ 3:1-8)	11月10日	フィリポ (ヨハネ 14:7-14)
4月14日	トマス (ヨハネ 20:19-28)	12月08日	ペトロ (ヨハネ 21:15-19)
5月12日	イエスの愛する弟子 (ヨハネ 21:1-7)		
6月09日	ザアカイ (ルカ 19:1-9)		
7月14日	サマリアの女 (ヨハネ 4:6-30)		
8月	休み		

指導者: フランコ神父

☎ 個人またはグループでの黙想会  
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター  
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7  
☎ 0968.85.3100  
e-mail: shinmeizan@gmail.com  
www.shinmeizan.com

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール  
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心のテーマを探求します。2年間のコース。

●土曜アカデミー 下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、  
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。  
キリスト教思想史に関心を持っている方。プログラムの詳細は、別途配布。

2016年度 夏学期: 理性の自律と心の愛  
4/9, 4/23, 5/7, 5/14, 5/21, 5/28, 6/11, 6/25, 7/2,  
7/9, 7/23, 9/3, 9/10, 9/17

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右テレジア小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」 毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
どなたでも。但し祝日、8月9日、12月27日は休み。  
8月23日は、上智大学内クルトゥルハイム2F聖堂。  
・「お昼の黙想」 毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
どなたでも。但し祝日、8月2日、11月1日は休み。  
・「水曜日ミサ後の黙想」 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。  
どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。  
・「通う霊操」 8月20日(土)～8月28日(日)  
18時～20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

・「黙想会」

6月18日(土)10時～19日(日)14時(上石神井)、11月19日(土)～20日(日)(上石神井)、2017年2月18日(土)～19日(日)(上石神井)、1泊2日、7,000円位。申込の締切期は、初日の8日前。  
[関西] 9月24日(土)13時30分～25日(日)15時(宝塚黙想の家)。Tel.0797-84-7863 (Sr.田中)。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。  
2016年  
3月5日、4月9日、5月7日、6月11日、7月2日、  
8月6日、9月10日、10月1日、11月12日、12月3日  
2017年  
1月14日、2月25日、3月11日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

●坐禅会

・月曜日、木曜日 17時45分～20時10分  
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。(祝日、4月28日、5月2日、8月全体、10月31日、12月26、29日は休み)

●坐禅接心

4月28日(木) 20時20分～5月5日(木) 8時40分  
6月3日(金) 20時20分～5日(日) 13時00分  
8月7日(日) 20時20分～13日(土) 8時30分  
10月30日(日) 20時20分～11月3日(木) 8時30分  
秋川神冥窟。1泊 2,400円(+暖房費)程度。  
事前申込み要。

[関西]

4月16日(土)13時30分～17日(日)15時、7月30日(土)17時45分～8月5日(金)15時。  
宝塚黙想の家。事前の申込み要。  
Tel.0797-84-7863. (Sr.田中)

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。  
4月23日(土)、6月25日(土)、10月15日(土)、2017年1月29日(日)。



## リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座 2016-17年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- イエス(上智大学内クルトゥルハイム2階)
- 03/04 人生の完成— 神の内に生きる
- 03/11 聖母マリア— 信じる者の原型
- 03/18 ●御受難と御復活の黙想(予定)
- 03/25 ○休み(聖金曜日)
- 03/27 ◆復活祭のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)
- 4/8 信仰の道— 人生の意義を問う
- 4/15 聖書の間人像— 人間の現状と使命
- 4/22 旧約聖書の神体験— 聞くことと見ること
- 5/6 理性と神認識の道— 世界内存在を通して
- 5/13 創造された世界— 人間存在の根拠と自然の意味
- 5/20 歴史と信仰— 神との出会い
- 5/27 内なる神— その「似姿」としての人間
- 6/3 新約聖書の神理解— 主なる父
- 6/10 祈りによる神理解— 神の偉大さと近さ
- 6/17 救い主の役割— 人類の待望
- 6/18-19 ●黙想会(上石神井)
- 6/24 神の国— イエスの告げるメッセージ
- 7/1 イエスの生き方— 神に遣わされて人に仕える
- 7/8 イエスのたとえ話— 神の働きを語る
- 7/15 イエスの人間関係— 罪人と弟子と共に
- 7/22 イエスは誰か— イエスの自己理解
- 7/23 ◆感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)
- 7/29 最後の晩餐— 自分を与えるイエス
- 8/5,12 ○休み
- 8/19 イエスの受難— その史実と意図
- 8/20-28 ●通う霊操(18時-20時45分)
- 8/26 イエスの死— その救済的意義  
(8月中 上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂)

キリスト教理解講座 2015年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- [信仰の実現]
- 03/01 創造的霊性— 活動における観想
- 03/15 「聖徒の交わり」— 信仰の内に支え合う
- 03/27 ■復活祭のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2F、80人限定)
- 03/29 ○休み

[基盤]

- 4/5 存在の超越と内在 — 神理解への道

[人間]

- 4/19 人間: 神の似姿 — 理性・自由・信仰
- 5/17 救いの歴史 — 時間における意義

[神]

- 5/31 無限への問い — 理性による神理解
- 6/7 世界の根源 — 創造的自由・進化・摂理
- 6/18-19 ●黙想会(上石神井)
- 6/21 人生のうちに働く超越 — 神経験の多様な形
- 7/5 「私は在る」— 旧約における神の自己啓示と預言
- 7/19 神の語りかけ — 「契約」と「救い主」の待望
- 7/23 ◆感謝のミサ(14時、クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

## いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

### いのちの泉へ

#### すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、  
キリスト者としての靈性を養うための  
沈黙の祈りで構成された集いです



#### 東京 いつくしみの特別聖年に

3月21日(祭日月曜日)

1日静修特別プログラム (別紙参照)

4月23日(土)

午後2時 ~ 午後5時30分位まで

講話・祈り・質問・分かち合い

講話 伊従信子

\*\*\*\*\*

参加費 200円

お申し込み・問い合わせ：ノートルダム・ド・ヴィ  
〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35  
TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254  
e-mail [notredamedevie.japan@gmail.com](mailto:notredamedevie.japan@gmail.com)

#### 京都

3月12日(土) 13時半~15時 京都NDV 担当：伊従信子

\* 『イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔』

\* 『神はわたしのうちに、わたしは神のうちに』 聖母の騎士聖母文庫  
7章 神により頼む：失望している時、空虚感に落ちている時

3月15日(火) 13時半~15時半 河原町カトリック会館3階304室

\* 『イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔』 担当：伊従信子

『弱さと神の慈しみ』伊従編著、サンパウロ出版

\* 祈り：「都の聖母」聖堂にて 15~15時半

~~~~~

京都NDV お問い合わせ ノートルダム・ド・ヴィ

〒603-8378 京都府京都市北区衣笠御所ノ内町4

TEL・FAX(075-462-3525) email : [ndvkyoto@gmail.com](mailto:ndvkyoto@gmail.com)

## 特別黙想会 《わたしは神をみたい》

2016年5月27日（金）20時～29日（日）15時

# マリアに注がれる神のいつくしみ

いつくしみの聖年にあたり

マリアとともに 神のいつくしみのまなざしのもとに

しばらく静かなひととき

を過ごしてみませんか？



母マリアは

私たちが闇夜を歩いているとき

神のいつくしみの愛を

母としてすぐそばで示してくださる

救い主イエスのかたわらには

かならず母マリアがおられる

～マリー・エウジェンヌ神父 ocd～

- 指 導： 伊従 信子 （ノートルダム・ド・ヴィ会員）
- 持参品： 新約聖書、『いのりの道をゆく』伊従編訳 聖母文庫、聖母の騎士
- 参加費： ￥12000
- 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）  
158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 TEL 03-5706-7355
- お申込み： FAX：03-3704-1764 Eメール：[mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)  
または、ハガキにてお申込み下さい。

## サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 <http://sadhana.jesuits.or.jp/>  
 ★申込み受付・・開始日の8日前で締切ります

| コース                       | 日時<指導者>                                                    | 指導者  | 開催場所                                                     | 申込み                               |
|---------------------------|------------------------------------------------------------|------|----------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| サダナⅡ                      | 3/17(木)17:30-<br>3/21(月)16:00                              | Fr植栗 | 三位一体聖体宣教女会<br>東京修道院(東村山市)                                | 若山美知子※<br>Tel&Fax<br>03-5802-3844 |
| 入門A                       | 4/10(日)<br>9:30-17:00                                      | Fr植栗 | ニコラバレ修道院1F<br>(四ツ谷)                                      | 同上                                |
| 自己を知る<br>*1泊2日×<br>2=合計4日 | 4/16(土)9:30-<br>17(日)17:00<br>4/23(土)9:30-<br>4/24(日)17:00 | Fr植栗 | 汚れなきマリア修道会<br>町田黙想の家                                     | 同上                                |
| ダイアリー                     | 5/4(水)17:30-<br>5/8(日)16:00                                | Fr植栗 | 三位一体聖体宣教女会<br>東京修道院(東村山)                                 | 同上                                |
| 入門B                       | 5/15(日)<br>9:30-17:00                                      | Fr植栗 | ニコラバレ修道院1F<br>(四ツ谷)                                      | 同上                                |
| フォロー<br>アップ               | 5/29(日)<br>9:30-17:00                                      | Fr植栗 | ニコラバレ修道院1F<br>(四ツ谷)                                      | 同上                                |
| リピータの会                    | 6/2(木)17:30-<br>6/5(日)16:00                                | Fr植栗 | 沖縄・聖クララ修道院<br>Tel:098-945-8649 Fax:098-945-8720<br>Sr 比嘉 |                                   |

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

### ◆サダナⅠ(入門A、B、C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

### ◆サダナⅡ

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナⅠを終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。



## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel： 077-579-7580  
Fax： 077-579-3804  
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2016年 5月 6日(金) ～ 5月 14日(土)
- ② 8月 14日(日) ～ 8月 22日(月)
- ③ 10月 19日(水) ～ 10月 27日(木)
- ④ 12月 27日(火) ～ 2017年 1月 4日(水)

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2016年 2月 5日(金) ～ 2月 7日(日)
- ② 2月 26日(金) ～ 2月 28日(日)
- ③ 3月 18日(金) ～ 3月 20日(日)
- ④ 6月 17日(金) ～ 6月 19日(日)
- ⑤ 7月 22日(金) ～ 7月 24日(日)
- ⑥ 9月 16日(金) ～ 9月 18日(日)
- ⑦ 11月 18日(金) ～ 11月 20日(日)

C. 講話 黙想（奉献生活者のため）

2016年 5月 30日(月) ～ 6月 7日(火) 中川博道 師（カメル会）

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フリガナ) 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なされたい方はご相談ください。（但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）

# 祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて  
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00

## 【2016年予定】

- 3月17日(木) 『霊の賛歌』 第1回目：導入の講話（緒言と詩）
- 5月26日(木) 『霊の賛歌』 第2回目：はしがき・概要・注解
- 7月21日(木) 『霊の賛歌』 第3回目：第一の歌（2～12）
- 9月22日(木) 『霊の賛歌』 第4回目：第一の歌（13～22）
- 11月17日(木) 『霊の賛歌』 第5回目：第二の歌
- 12月15日(木) 『霊の賛歌』 第5回目：第三の歌

\* 参加費無料（献金歓迎）

\* 問い合わせ先：042-473-6287 篠原



九里彰神父（カルメル会日本管区長）

## ＜＜特別黙想会＞＞

日時：2016年12月17日(土) 4時半受付～18日(日) 午後4時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

テーマ：「神のいつくしみに気づく」

指導司祭：九里彰神父

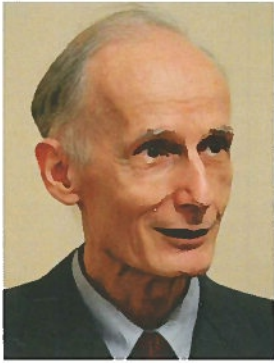
申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789

E-mail: [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



# クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

|     |                                                                                                                                          | ISBN<br>定価(本体+税)            |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| 第1巻 | <b>I 超越体験 一宗教論</b><br>宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p                 | 9784862852151<br>3,800 円+税  |
| 第2巻 | <b>II 真理と神秘 一聖書の黙想</b><br>日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p                             | 978-4862852175<br>4,600 円+税 |
| 第3巻 | <b>III 信仰と幸い 一キリスト教の本質</b><br>主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p        | 9784862852205<br>5,000 円+税  |
| 第4巻 | <b>IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論</b><br>古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拓けて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p                    | 9784862852212<br>4,000 円+税  |
| 第5巻 | <b>V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践</b><br>信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p | 9784862852229<br>4,200 円+税  |

### ●リーゼンフーバー, クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学の人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知泉書館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

# 霊性センターニュース

## \* 年間購読(郵送)のご案内 \*

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。  
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）  
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、  
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、  
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25  
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

[tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい。

\*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171 Fax: 03-3704-1789

**New!** 男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



## 『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

### 「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



### 編集後記

先日、東京で電車に乗っていると、乳母車を押した若いお母さんが乗ってきた。幼稚園ぐらいの小さな男の子を連れている。私が座っていたのは三人掛けの優先席。二人分空いている。男の子は「あいてるー！」と喜んで座ったが、お母さんは反対側の席のない所で、乳母車を押さえ、座らない。「おかあさんは、すわらないの？」と言うと、「おかあさんは、ここでいいの」という返事。「それじゃ、ぼくもすわらない！」と男の子は席を立ち、お母さんの所に飛んで行った。乳母車の中には、三つぐらいの弟がいる。お兄ちゃんと遊びたくて仕方がないという感じで、手をしきりに出していた。

「親の後姿を見て、子は育つ」と言うが、子供は親の一挙手一投足をまねして育つのだろう。そして親の価値観、世界観が子供たちに知らない間に伝わっていく。日本の教会は老人ばかりとなり、キリスト教信仰が若い世代に伝わらなくなっている。経済的に豊かになること、上にのぼることばかり考えた戦後日本のつげが回ってきたのだろうか。貧しくなり、十字架の死までへりくだられたキリストの姿に、現代人がまことの幸いを見出すのは、いつのことであろうか。 (P.九里)



### 製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「4月号」製本日

3月29日(火) 上野毛教会信徒会館ホール 1階

午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171